

なぜ、少年院で人生は変わるのか？（日本こどもみらい支援機構代表 武藤杜夫さん）

●日時 平成 29 年 11 月 17 日（金）15:30 - 17:05
 ●演題 なぜ、少年院で人生は変わるのか？
 ●講師 日本こどもみらい支援機構代表 武藤杜夫さん（参加生徒 27名）

LABOの生徒のリクエストにより、沖縄少年院の元法務教官だった武藤杜夫さんの講演会が実現しました。「目を閉じ、姿勢を正してください」という一言から始まった講演会。9年間にも及ぶ義務教育（高校・大学を含めるとそれ以上）を通して、人の話を聞く姿勢だけは一人前であってほしいという思いから、少年院の授業もそのように始めるそうです。そのため沖縄少年院の子供たちの授業態度はとても美しいのだそうです。少年院の子供たちとの関わりや命の尊厳など、武藤さんの心に響くお話に、感動の涙を見せる生徒もいました。



【武藤杜夫さん】
 自らも非行少年だったが、教育者としての使命に目覚めると、独学で法務省の試験に合格し、沖縄少年院の法務教官となる。「残りの人生は現場で子供たちのために使う」という信念のもと、異動の辞令を機に退職。日本こどもみらい支援機構を起ち上げた。



～生徒の感想～

- ・少年院は新たな自分と出会う1つの場であることを学んだ。
- ・一言でいえば「人生観が変わった」。
- ・「生きる」ということの価値が分かった。自分自身の存在意義が分かった。
- ・誰かと競い合うのではなく、自分らしく成長していきたいと思った。
- ・よりたくさんの“もの”に目を向け、偏見にとらわれずに生活していくべきだと思った。グローバルを重視する前に、私たちとは違う生活をしている日本の学生についても知りたい。

■ 少年院について

- ・少年院とは非行を犯した未成年者に更生のための教育や社会復帰支援等を行う法務省の施設。設備や教育には多額の経費がかかっており、日本が青少年の立ち直りに熱意を持っていることが分かる。
- ・法務教官の仕事は「教師＋心理カウンセラー＋警察官÷3」であり、生徒との「魂の交流」を最も大切にしている。

■ 教育について

- ・「競争という名の籠」に子どもを押し込めてはいけない。大人が作ったゲームで勝利できない子が、自分たちのルール（非行）で勝利者になろうとする。相手と比較する「勝ち組・負け組」ではなく、自分自身と向き合い磨いていく「成長組」になるべき。
- ・かけがえのない「命」という宝物を抱いて生まれてくる人間は皆、生まれながらの成功者である。成功とは手に入れるものではなく、気づくものであり、そのことに感謝できるようになることである。
- ・犯罪や非行は、命の価値が分からないから起こる。
- ・人は独りぼっちになってはいけない。いじめは人間を独りぼっちにする最悪の暴力である。まずは大人社会でのいじめをなくすべきである。
- ・教育者とは未来からの使者である。未来から来て、子供たちを未来に連れていく。

■ なぜ少年院で人生が変わるのか

- ・子どもを力づくで変えることなどできない。諦めずに挑戦し続けることで自分が変わっただけ。その背中を見た子どもたちが、同じように挑戦し始めて変わっていった。それを「更生」と呼ぶ。
- ・「更生」という2つの文字をつなげると「甦」という字になる。挑戦する勇気を甦らせていくことが大人の役割である。
- ・子どもは挑戦の天才であり、非行少年には“大物”“一流”になる資質がある。法務教官の仕事とは、子どもの可能性を信じぬくことである。
- ・「少年院卒業」を誇りに思える時代を作りたい。
- ・どこに行くかではなく、誰と一緒に行くかが重要。人生はどの瞬間に誰と出会うかによって決まる。皆さんも出会いを大切にしてほしい。